

1. 日時 令和〇年〇月
2. 場所 4年〇組 教室
3. 学年・組 第4学年〇組(〇名)
4. 単元(教材)名 「くらしの中の和と洋ブックを作って、紹介しよう」

「くらしの中の和と洋」/自分が選んだ本

5. 単元目標

○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し、使うことができる。〔知識及び技能〕(2)イ

○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕 C(1)ウ

○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 C(1)カ

○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 B(1)イ

○学校の人たちに紹介するために、進んで資料を読んだり友だちと考えを交流したりして情報を集め、学習の見通しをもって紹介文にまとめようとしている。「学びに向かう力、人間性等」

6. 本単元で取り組む言語活動

「くらしの中の和と洋ブックを作って、紹介する」

自分が選んだ和と洋を比較し、最も大きなちがいとそれぞれの良さについて、調べた複数の情報を関連付けてまとめ、和と洋ブックをつくり、学校図書館に置き〇〇小学校の人たちに紹介する。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方が身につけている。((2)イ)	①自分が選んだ和と洋を紹介するために、中心となる語や文を見つけて要約している。(C(1)ウ) ②文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。(C(1)カ) ③書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ)	学校の人たちに紹介するために、進んで資料を読んだり友だちと考えを交流したりして情報を集め、学習の見通しをもって紹介文にまとめようとしている。

8. 指導にあたって

○児童観(既習の経験)

本学年の児童は、第三学年「食べ物のひみつ教えます」の学習で、すがたを変える食べ物について様々な資料で調べ、集めた情報を整理し、紹介文を書く活動をしている。

第四学年の「ヤドカリとイソギンチャク」の学習では、説明文の文章の構成を確認し、筆者の説明の仕方と同じ構成で助け合う生き物たちについての説明文を書き、伝え合っている。説明文を書く際には、参考となる資料の文章を要約する活動も行っている。また、「広告を読みくらべよう」の学習では、同じ製品を紹介する広告2枚を読み比べ、必要な情報を整理してまとめたり、表し方の違いや工夫を考えたりしている。

これまでに学習した「情報を集め整理する」「文章を要約する」「文章の構成を考え、まとめる」ことをふまえ、本単元ではより複雑で多くの情報を関連付けながら、紹介文としてまとめていく学習を行う。これまでにつけた力を確認したり、新しい視点や工夫を丁寧に伝えたりすることで、子どもたちが主体的に学習に取り組む姿を生み出したい。

○教材観

本教材は、暮らしの中の「住」における「和」と「洋」の違いやそれぞれの良さを対比して、分かりやすく説明したものである。

まず、これまでに獲得してきた「要約してまとめる力」や「文章のまとまりや構成を捉える力」を生かし文章構成を押さえたうえで、「和」と「洋」の対比構造に気づかせていき、それぞれの良さを読み取らせたい。また、それぞれの良さをどのような観点から比べているのか、その観点に沿って、どのような事例が挙げられているのかを明確にしていく。

次に、自分が調べたい「和」と「洋」について本や資料を読んで調べる。そして、教材文から読み取った比較の観点を意識し、調べたことの中から必要なものを選び、それらを比べたり、分類したりして、関係付けてまとめる。紹介文をまとめる言語活動を通して、資料から引用したり、出典を示したりすることも十分に理解させていくことができる教材である。

○子どもたちが扱う資料の例

テーマ	和と洋	資料名と該当のページ
衣	和服と洋服	日本と世界のくらし 衣 p. 6～9
	足袋と靴下	日本と世界のくらし 衣 p. 14～17 古い道具と昔のくらし辞典 P. 59
	筆とペン	日本と世界のくらし 衣 p. 30～33
	ふろしきとかばん	日本と世界のくらし 衣 p. 38～41 古い道具と昔のくらし辞典 P. 33
	和紙と洋紙	日本と世界のくらし 衣 p. 34～35 ポプラディア
食	うどんとパスタ	食育に役立つ食材図鑑5 米・麦・豆 P. 18～19 すがたをかえる米・麦 P. 34～35 世界の衣食住 ヨーロッパの食べもの P. 10
	しょうゆとソース	日本と世界のくらし 食 P. 30～33 食育に役立つ食育図鑑5 米・麦・豆 p. 32・38・39
	はしとスプーン・フォーク	日本と世界のくらし 食 p. 18～21 箸の絵本 p. 3・5 まるごと日本の道具 p. 42・44・48
	和菓子と洋菓子	世界の衣食住 世界のおかし p. 20～22・40～42

		すがたをかえる 米・麦 p.12～13・32～33
	ごはんとパン	すがたをかえる 米・麦 p.16～17 米がへんしん p.16～17
	緑茶とコーヒー	「モノ」のはじまり百科 p.16～17 ポプラディア
住	風呂とシャワー	日本と世界の暮らし 住 p.30～33 日本の文化と生活 p.28～29 文化のちがい p.4～6
	布団とベッド	日本と世界の暮らし 住 p.26～29 文化のちがい p.8～10
	和式トイレと洋式トイレ	日本と世界の暮らし 住 p.34～37
	ふすまとドア	日本と世界の暮らし 住 p.14～17
	畳とカーペット	日本と世界の暮らし 住 p.10～13
	木造づくりの家と石造づくりの家	日本と世界の暮らし 住 p.6～9 日本の文化と生活 p.23 世界の衣食住 アジア・アフリカ p.4～7

○指導観

(1) 単元を通してつけたい力

目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる力【思・判・表 C 読むこと(1)ウ】

本単元では、和と洋でペアになった物を比較し「最も大きなちがい」を資料の中から見つけて要約する。また、そのちがいが生み出す観点で比較し、それぞれの良さを情報や経験をもとにまとめる。

(2) 言語活動とつけたい力のつながり

本単元を通してつけたい力をつけるために、「暮らしの中の和と洋ブックを作って、紹介しよう」という言語活動を設定した。和と洋ブックを作るために、様々な資料から自分の紹介したいことに関係する部分を見つけ、中心となる語や文を使って要約したり、集めた情報や経験をまとめたりして紹介文を作成する。○ ○小学校の人たちが読んで、「なるほど！」「分かりやすい！」と感じられる紹介文にすることをめざしていきたい。

(3) つけたい力をつけるための単元計画について

単元に入る前に、「和と洋」のペアについて確認する。日本で考えられた物と外国で考えられた物で用途が似ているペアを「和と洋」とするが、そのペアを正確に考えることは子どもたちにとって難しいのではないかと感じた。また、名前は出てくるが今ではあまり使われることのない物もあり、正しいペアができて、出てきた物に対する子どもたちの知識が少ないのではないかと考えた。そこで、どのような物が和と洋のペアとなるのかを出し合ったり、和と洋のペアとして出てきた物について詳しく調べたりする活動を事前に行う。

教科書教材「暮らしの中の和と洋」には、暮らしの中の和と洋を紹介する視点としてそれぞれを比較し「最も大きなちがい」「ちがいが生み出す観点」「その観点から考えるそれぞれの良さ」が提示されている。その3つをつなげて紹介することが大切であるため、

「①自分の考える最も大きなちがいを決める。」「②そのちがいが生み出す観点を考え、決める。」「③その観点でそれぞれの良さを考える。」という順序で考えていくのであるが、実際に指導者が言語活動に取り組み、その順序でまとめていこうとすると、よい情報が見つからなかったり、つながりが感じられなかったりして、大変難しかった。この思考の順序が本学年の子どもたちにとって、大変難しいのではないかと考え、考える順序を変更した。

「①『最も大きなちがい』となるものを複数考える。」「②和のものと洋のものの『それぞれの良さ』を複数考え、同じ『観点』のものを探し、つなげておく。」「③『最も大きなちがい』と『それぞれの良さをつなげた観点』でつながりのあるものを選ぶ。」という順序で学習を進める。

本単元では、考えを交流する活動を積極的に取り入れる。自分の考えを友だちに伝えたり、友だちの考えを聞いたりする中で、自分の考えに自信を持ったり、自分の考えを深めたりすることにつなげていきたいと考える。本学年の児童は、これまでも様々な学習で友だちとの意見の交流を行ってきたが、交流した後、その交流が自分の考えをより進めたり深めたりしているとは感じられなかった児童が少なくなかった。そのため、本単元では、交流をする前にそれぞれの交流の目的をはっきりさせてから交流する。「自分の考えを伝え、それに対する意見を聞きたい」のか「友だちがどのように考えたのか聞いて、自分の考えに活かしたい」のか、しっかり確認してから交流を始めるようにする。自分の交流の目的にそった交流ができるように、「この考え、どう思う?」「この続きをどうしたらいいと思う?」「どんな考えになった?」「どうやって考えた?」といった4つの話型を提示し、これらを手がかりに児童一人ひとり人が交流の目的を明確にできるようにする。

○言語活動モデル

使わせたい対比を示す表現

引用

違いが生み出す観点・それぞれの良さ

最も大きなちがい

れく(式り(くぞ	まもての?	このでたをよ	の作草い平作	そうりとくつ 四年組
てら川なは監られこの	せともサた一	とですりはそうで	ちらやまらりぞ	
いしペは修しのの	んちつイリ方	が、めさう。は	がれ布すに方う	
るのいきッ良よ	。ゆかスす、	で足鼻いんり	いてな。あでり	
の中ジも今上どさう	うれにるく	きのおだではは	をいど。こんすど	
でで)の日羽こがに	でに合よつは	まサにりはき	生まがれ。もぞつ	
す。そあしは子同りぞ	げくてに足	。ズのきまのの	出。を対のうの	
のりて(じまう	る、いはを	が指のす親	しこ包しにり最	
両ま用着と?すり	こはるきを中	少をの。指が	てのむ。て。はも	
方すい物いど。と	はしです入	しひで。早と	いちよ。鼻植	
のわ。をう。く	ほい。と長はれ	かとか。差考	るがう。く緒物	
良。わたるにち本に	と運長はれ	っけてんし	考が加はつ。のち	
さをしいとはがと	ん動時く足	てるも単指	え。エ。けせが	
取たまきのぞ?界そ	どの間人足	もだべにで	らはさ動らんい	
りちすの。それ	あ。と歩のに	はけんは鼻	れきれ物れい	
入は。正うの	りきい足ひ	く。なりいお	ま方。て。を	




9. 単元の指導と評価の計画

時	学習内容	・指導上の留意点	主な評価規準【観点】 (評価方法)
1	○単元の学習の見通しを持つ。 (モデル文) ○「くらしの中の和と洋」を読み、 意味調べをする。	・「自分が紹介する和と洋」について、「その最も大きなちがい」と「観点」、その観点に基づいた「それぞれの良さ」について、調べた複数の情報を関連付けて紹介する文章を書くという言語活動の見通しを持たせる。 ・どんな学習が必要か、何を知らたいかを考えさせる。 ・「最も大きなちがい」と「観点」、「それぞれの良さ」について着目しながら、範読を聞くよう伝える。	・単元のゴールに向けて、進んで学習に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 (ノート)
2	書くときに使いたい言葉や書き方をみつけよう ○「くらしの中の和と洋」の文章の構成を考えて、内容を確認する。 (全文シート)	・今まで学習してきた文章の構成を意識して、話題提示やまとめの部分をつまみ、「始め」と「終わり」を確認させる。 ・各段落に書かれていることつながりを意識させるとともに、接続語に着目させる。 ・比較を示す「一方」「これに対して」という表現に着目させる。	
3	○本時の見通しを持つ。 ○和室と洋室「最も大きなちがい」「観点」「それぞれの良さ」をまとめる。 ・どんな考えになった？ ・ここからどうまとめたらい？ ・この考えをどう思う？	・モデル文とワークシートのつながりを確認する。 ・「最も大きなちがい」「観点」のそれぞれを色分けして、線を引かせる。 ・和と洋について比較しながら述べていることに着目させる。	・和室と洋室のちがいやよさを読み取っている。 【C 読むこと(1)ウ】 (ワークシート)
4	「自分が紹介したい和と洋」を決めよう ○モデルを確認する。	・「最も大きなちがい」「観点」「それぞれの良さ」に着目させる。 ・文章の構成を確認する。	

	○自分が紹介する和と洋を決める。 ・どの本を選んだの？ ・なんでその本を選んだの？ ・良さを書けるかな。 ・ちがいにどんなことが書けそうかな。	・言語活動をイメージしながら本を選ぶように声掛けをする。 ・決まった児童から、名前の付箋を貼らせる。 ・本を選んだ理由や伝えたいことをふり返りに書かせる。	・学校の人たちに紹介するために、進んで資料を読み、学習の見通しをもって紹介文にまとめようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 (ノート)
5	「自分が紹介したい和と洋」の違いを考えよう ○「自分の紹介する和と洋」違いに繋がる特徴を、資料を読み比べて考える。 ○見つけた特徴を元にして、違いを考える。 ・この特徴(形・材料など)につながる違いがある？ ・この特徴の違いは、何て書いたらいい？	・モデルを掲示して、活動の見通しを持たせる。 ・違いにつながる特徴に線を引かせる。 ・考えにくい児童の支援として、違いに繋がる特徴(形や材料など)を示す。 ・納得した違いやもっと知りたいことについてふり返らせる。	・目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。【C読むこと(1)ウ】 (資料・ワークシート)
6	「自分が紹介したい和と洋」を比べながら、それぞれ良さを考えよう。 ○「自分が紹介する和と洋」の「それぞれの良さ」を考える。 ○それぞれの良さを観点に着目してグルーピングする。 ・他にどんな良さがあるかな？ ・和の良さは出たんだけど、洋の良さは何かな？ ・この良さって○○でくらべている？	・モデルを掲示して、活動の見通しを持たせる。 ・経験に基づいた事でも資料に載っている内容でもよいことを伝える。 ・ふり返りで「最も紹介したい良さ」について書かせる。	・観点を明確にして比較・分類し、それぞれの良さを見つけている。 【知・技(2)イ】 (ノート)

7 本 時	○前時の学習をふり返る。 つながりにこだわって「3つのこと」を決めよう ○自分が紹介する和と洋の「最も大きな違い」と「観点・それぞれの良さ」の繋がりを考える。 ・繋がっていると思うけど、どう思う？ ・この観点到繋がっている違いは何か？ ・どれとどれを繋いだの？ ・どのように考えて繋いだの？ ○自分が紹介する和と洋の「最も大きな違い」と「観点」「それぞれの良さ」を決める。	・自分が紹介したい「最も大きな違い」「観点・それぞれの良さ」を観点図に整理させる。 ・交流の際に、違いの根拠となる文章を示すようにさせる。	・「自分が紹介する和と洋」について複数の情報を関連付けている。 【知・技(2)イ】 (ワークシート) ・進んで友だちと考えを交流したりして情報を集め、学習の見通しをもって紹介文にまとめようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】(ノート)
8	「最も大きなちがい」を分かりやすくまとめよう ○「最も大きな違い」について、これまでに線を引いた言葉に着目し、「最も大きなちがい」を要約する。 ・どう書いたらいい？ ・こう書いたけどどうかな？ ・この文で伝わるかな？ ○要約を完成させる。	・言語活動モデルを提示して、書き方を確認する。 ・要約の仕方について既習事項を思い出させる。 ・和と洋ブックにまとめるために、字数の目安を示す。 ・ホワイトボードを使って考える。	
9	○本時の学習の見通しをもつ 「なるほど！」を生み出す事例をあげて、良さを紹介しよう ○「自分が紹介する和と洋」の「観点」と「それぞれの良さ」につながる事例を考える。 ・どんな事例があるかな？ ・この事例で納得できる？ ・どの事例がいいかな？ ○「自分が紹介する和と洋」の「観点」と「それぞれの良さ」についてまとめる。	・言語活動モデルを提示して、書き方を確認する。 ・観点に対するそれぞれの事例と良さを書くことを共有する。	・自分が選んだ和と洋を紹介するために、中心となる語や文を見付けて要約している。 【C 読むこと(1)ウ】 (ワークシート)

10	「なっとく」を生み出す文を自分の本から引用しよう ○考えにつながる文を探し、線を引く。 ・どんな文に線を引いたの？ ・どんな考えを伝えたいの？ ・この文を引用しようと思っているんだけど、どうかな？ ○一番納得を生み出せると考える文を引用してまとめる。	・引用する際は、「かぎをつけて書く」「元の文章のまま抜き出す」「必要な部分だけ引用する」「本の書名、筆者名、出版社名、書かれていたページを正しく書く」という4つのルールを確認する。	・引用の仕方や出典の示し方が身についている。【知・技(2)イ】 (ワークシート)
11	図書室に置くために、和と洋ブックを書こう ○下書きを書く。	・言語活動モデルを提示して、書き方を確認する。	
12	和と洋ブックを完成させよう ○推敲する。 ○清書する。	(推敲の観点) ・誤字脱字 ・主語、述語のねじれ ・分かりやすく要約できているか。 ・相手意識を明確にさせる。(全児童が読むことを意識させる。) ・できたら黒板に名前磁石を貼らせ、できあがった児童同士で再度推敲、交流させる。	・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 【B 書くこと(1)イ】 (ワークシート)
13	友だちの和と洋ブックの良さを見つけよう ○出来上がった文章を交流する。 ○単元の学習をふり返る。	・衣食住それぞれのグループに分かれて交流させる。(交流の視点) ・段落のつながり。 ・分かりやすく要約できているか。 ・自分の考えとの違いや共通点。 ・単元をふり返るためのアンケートを用意し、単元を通して身についた力を明確にする。	・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。 【C 読むこと(1)カ】

10. 本時の展開 2次 第5時(7/13)

(1)本時の目標

・紹介したい「観点・それぞれの良さ」と「最も大きな違い」をつなげ、観点図をまとめることができる。

【知識及び技能(2)イ】

・学校の人たちに紹介するために、進んで資料を読んだり友だちと考えを交流したりして情報を集め、学習の見通しをもって紹介文にまとめようとしている。

「学びに向かう力、人間性等」

(2)本時の評価規準

・「自分が紹介する和と洋」について複数の情報を関連付けている。【知・技(2)イ】(ワークシート)

・進んで友だちと考えを交流したりして情報を集め、学習の見通しをもって紹介文にまとめようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】(振り返り)

(3)展開

時間	主な学習活動	指導上の留意点	【観点】評価規準 (評価方法)
10	○前時の学習をふり返り、伝えたい良さを決める。	・前時のワークシートやふり返りを活用する。	
	つなかりにこだわって3つのことを決めよう。		
	○本時の学習の見通しを持つ。	・モデルとワークシートを使って本時の学習をイメージさせる。	
5	○「観点・それぞれの良さ」と「大きな違い」のつながりを個人で考える。		【知識・技能】 (ワークシート) 自分が紹介する和と洋について複数の情報を関連付けているかを確認する。
20	○グループで考えを交流する。	・ゴール、交流の目的を明確にさせる。 ・みんなの考えがまとまったグループには、もう一度資料を読み自分の選んだ最も大きな違いについて考えてもよいことを伝える。	
	・繋がっていると思うけど、どう思う？ ・この観点到繋がっている違いは何か？ ・どれとどれを繋いだの？ ・どのように考えて繋いだの？		
5	○自分が紹介する和と洋の「最も大きな違い」と「観点」「それぞれの良さ」を決める。		
5	○本時の学習をふり返る。	・交流を通して、変わったことや深まったことについて書かせる。	【主体的に学習に取り組む態度】(振り返り) ・振り返りに、自分の考えが、変わったことや深まったことを記述しているかを確認する。

(4)本時における具体的な児童の状況(※本時の評価規準に関わる場面において)

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
紹介したい「観点・それぞれの良さ」と「最も大きな違い」につなぐりのある観点図をまとめている。	「観点・それぞれの良さ」と「最も大きな違い」がつけられるために、これまでのノートやワークシートを見直して考えるように促したり、友だちのアドバイスを参考にして書いたりするように促す。

11. 子どもの姿

○言語活動

和菓子と洋菓子

四年 組 ()

和菓子と洋菓子

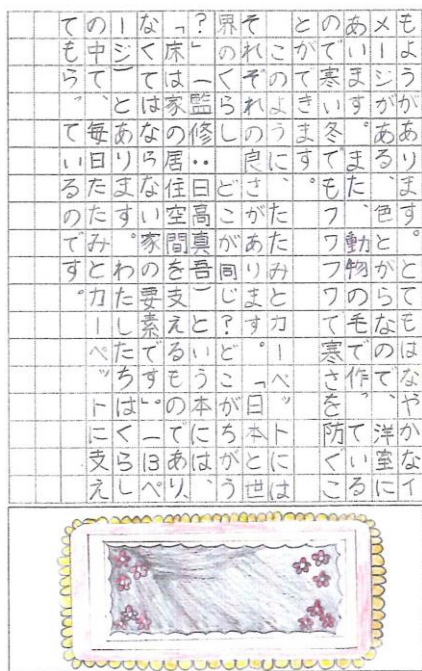
四年 組 ()

筆とペン

四年 組 ()

筆とペン

四年 組 ()



た
た
み
と
カ
ー
ペ
ット

四年 組 ()

○単元の振り返り

★この単元で、自分にどんな国語の力がついたらと感じるが書きましょう。

引用する力や「観点」「良さ」のつなかりを考える力は、ほかの学習でよくは使えると思いました。

★この単元で、自分にどんな国語の力がついたらと感じるが書きましょう。

観点を考えたり良さなどの文を考えるようになりました。

★この単元で、自分にどんな国語の力がついたらと感じるが書きましょう。

要約する力や、資料から必要な情報をみつけだせる力がついたらと感じる。(最終的な観点、良さなどをみつけられる力がついたら)

★この単元で、自分にどんな国語の力がついたらと感じるが書きましょう。

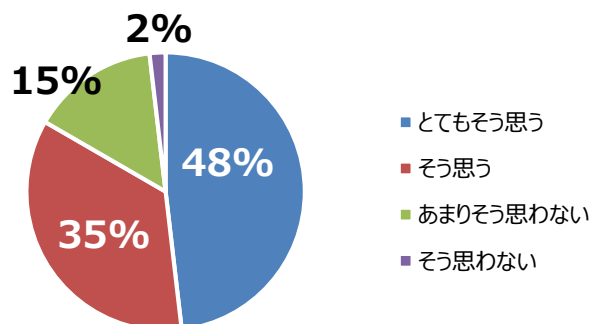
資料を見ながら文章に書ける力が身についた。交流をしちからあかりやすい文章を書くことができた(身についた)

★この単元で、自分にどんな国語の力がついたらと感じるが書きましょう。

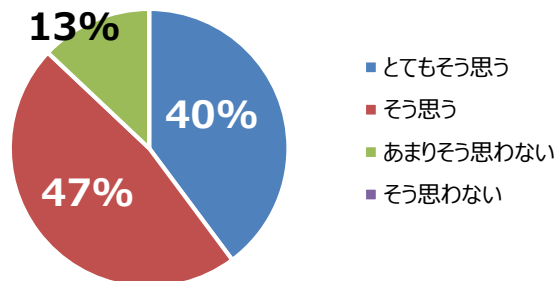
読み取る力! なびる、自分本を作るになると、すぐ目標ができて、じゃんこの時はしなうをよ読んで、書いて、使っている自分の気持ちをよく感じたからです。

○単元末アンケート

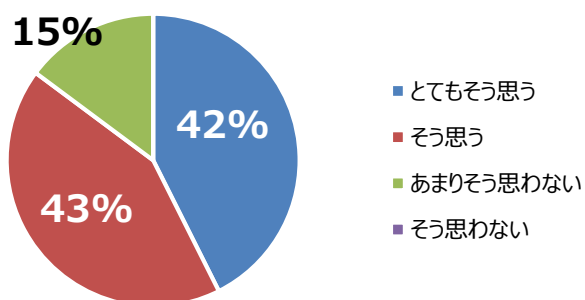
【くらしの中の和と洋ブックを作って、紹介しよう】の学習は、楽しんで勉強することができましたか。



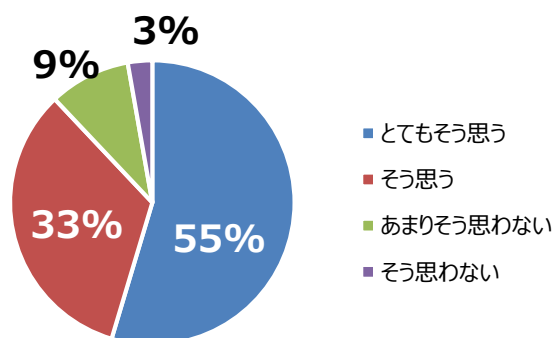
この学習で、資料から自分に必要な情報を見つけたり、引用を用いながら自分の考えをまとめたりすることができましたか。



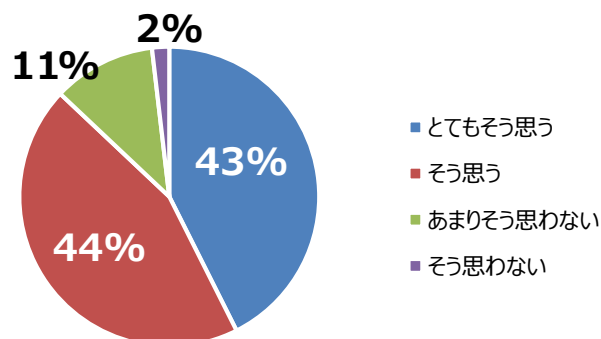
「最も大きなちがい」「観点」「良さ」など文章の構成やつながり考えることで、和と洋のそれぞれの良さが伝わる紹介文を書くことができたと感じましたか。



友だちと交流することで自分の考えが広がったり深まったりすると感じましたか。



この学習で身につけた、文章を要約する力は、他の学習でも使えそうですか。



12. 成果と課題

○リフォーム授業のふり振り返り

本時の反省点として、『紹介したい「観点・それぞれの良さ」と「最も大きな違い」をつなげ、観点図をまとめること』を本時の目標にしていたが、前時となる「伝えたい良さを決める」ことがまだできていなかった児童が複数いたため、その児童を中心に「伝えたい良さ」を探したり決めたりする姿が多く見られた』ということが挙げられた。そのため、本時まで「伝えたい良さ」をしっかりと決定してから本時に臨んだ。それによって、本時の目標に向かって活動する姿が見られた。また、「伝えたい良さ」をしっかりと決めていたことが、「自分の決めている良さにつながっているちがいはどれかな？」という思考で観点図をまとめていくことができ、どのように考えて観点図にまとめていくかという部分においても分かりやすくなった。

しかし、思考が分かりやすくなっても、「観点・それぞれの良さ」と「最も大きなちがひ」をつなげることが難しいと感じる児童も多かった。スムーズに決まった児童もいたが、納得がいらず、自分の伝えたい良さを考え直したり、最も大きな違いをもう一度探したり、様々なことを考え直している児童の姿も見られた。交流の時間に、その児童の観点図をグループで考える姿も見られたが、本時ではまとめられなかった児童もいた。

○単元全体を通した成果と課題

自分の伝えたい和と洋の「最もおおきなちがひ」「観点」「それぞれの良さ」を、『つながりを意識してまとめていくこと』、また、『資料から情報を集め説得力のある文章にまとめていくこと』のどちらも考えながら言語活動を進めていくことは、本校児童にとって難しい学習だった。

しかし、『くらしの中の和と洋ブックを作って、〇〇小学校の人たちに紹介する』という活動に魅力を感じ、難しい活動にも意欲をもって取り組んでいた。じっくり資料を読み自分の文章に必要な情報を探す力や、難しい課題だからこそ友だちとしっかりと意見を交わして交流する力がついたように感じる。出来上がった文章を読み、達成感も感じていた。

一方、一つひとつの活動を授業時間内で終われない児童もいるのが現状である。「情報を集め整理する」「文章を要約する」「文章の構成を考え、まとめる」「資料より必要な文を引用する」などの学習を繰り返し行い、力をつけていきたいと考える。

